

日本語表現文型

中級 I



日本語表現文型

中 級 I

江苏工业学院图书馆
藏书章

筑波大学日本語教育研究会

NIHONGO HYÔGEN BUNKEI

Intermediate Textbook I

edited by

Japanese Language Research Group, University of Tsukuba

Printed & published by

ISEBU Publishing Co., Ltd.

distributed by

Bonjinsha

Kôjimachi 6-chome Bldg.,

Kôjimachi 6-chome, Chiyoda-ku, Tokyo

Printed in Japan

は し が き

本書は、日本の大学あるいは大学院に留学する一般外国人留学生を対象とした中級程度の教科書である。

「初級」と「中級」のさかい目をどこに置くかについては、いろいろな考え方があり得る。ここではごく大まかに、現在多く市販されている初級用の教科書ないし参考書を一応終えたあたり、というふうに考える。学習時間数でいえば、ほぼ300時間程度の教室学習時間を経たものというてよからうか。週20時間前後の短期集中コースで半年、週10時間程度なら一年ぐらい、というのが平均的な目安であろう。

初級を上のように考えたとき、それを一応終えて大学あるいは大学院に入った学生が、それぞれの専門の勉強を、他の日本人学生と同じようにやっていこうとすると、なおかなりの日本語力の不足を感じるはずである。かといって、専門書や新聞や小説などを、辞書をたよりにただがむしゃらに読んでいくというのも、いかにも非能率的であろう。本書はそういう学生が、専門の勉強をすこしずつ始めるのと並行して、約一年で一般的な表現の類型を能率よく身につけていくための助けとなることを意図して作成したものである。

「表現文型」というのは、言ってみれば「構造文型」に対するものである。学生用の現行の初級用教科書は、文の構造を単純から複雑に整理して並べ、それを骨組みにして作られたものがほとんどである。本書は、学生がそういう初級の課程で与えられる文法的知識、たとえば各種の助詞の機能とか、用言の活用形や補助形式の用法とかを、一応習得していることを前提としている。その上で、学生が一般的に日本の大学で要求される理解・表現の型をとり出し、それぞれの特徴について考え、実際に応用できる力を養うことを目標とした。

昭和57年3月に、それまで各教官がプリントの形で配布、使用していたものを集め、「試作版」(2冊)として出した。本書は、57年度の一年間、それを中級全クラスで使用しながら、教官が共同討議をくり返し、その結果をまとめたものである。

表現類型、つまり各課の順序は、必ずしも易から難へ、という順序にはなっていない。しかし、各課の中では、大体やさしいものから難しいものへと並べてある。はじめはやさしい話しことば次に日常的な対話、最後に書きことば的表現、というふうになっている。書きことば的表現の中には、なまの文章にかなり近いものもときには入れてある。

本書は、教室授業か否かは別として、一応指導者の存在を前提としている。指導者は、初級の場合と同様、できるだけ最初は直接口頭で(つまり初めから「読本」として本書を使うのではなく)、各課の表現文型を学生に理解させ、多少の練習もしてから、本文を“読む”作業にかかっ

てもらうほうがよいと思う。一課ずつ進めていくか、適当な順にとり上げていくか、あるいは、まず各課のやさしい部分をひととおり終りまでやってから、読解的にまた初めに戻るか、等々は、全くそれぞれの学習環境、目的によって教授者に判断してもらうのがよいと思う。

「表現文型」については、まだこれというきまった型や数はないといってよいと思う。本書でも、なおつけ加えたいと思う類型がいくつかあったが、今回はこれで一応出すことにした。利用者の率直な批判、示唆を期待している。

1983年3月

筑波大学日本語教育研究室

代表 寺村 秀夫

共同執筆者

寺村 秀夫 (文芸言語学系)

野口 崇子 (非常勤)

草 薙 裕 (文芸言語学系)

田中 都紀代 (非常勤)

堀口 純子 (文芸言語学系)

加納 千恵子 (非常勤)

佐久間 まゆみ (文芸言語学系)

藤田 正春 (教育学研究科院生)

綾部 裕子 (現代語現代文化学系)

大前 典子 (非常勤)

第2版へのはしがき

今回第2版を出すにあたって、これまでに気づいた誤字、脱字を訂正した。本文、練習問題、語句説明、例文などにも改めたい点が少なくないが、今回は最少限にとどめざるを得なかった。近いうちにさらに改訂していきたいと考えている。

初版を使用しながら誤りや不適切なところを指摘して下さった先生方に感謝申し上げる。

1984年3月

編 著 者

目 次

1	名・分類・定義	1
2	存在・位置	19
3	存在・数量	49
4	移 動	65
5	変 化	81
6	過程・推移・経過	101
7	時の表現	119
8	要求・依頼・命令	149
9	希望・願望	171
10	意 志	193
11	申し出・勧め・誘い	215

Ⅱ の 目 次

12	類似・比況・比喻
13	比 較
14	程 度
15	対 比
16	伝 聞
17	予想・予感・徵候
18	予想・期待の実現と非実現
19	原因・理由 (I)
20	原因・理由 (II)
21	逆 接

1

これは日本の雑誌です。

この雑誌は毎月一回出ます。

雑誌のなかで、毎月一回出る雑誌を月刊誌といいます。

これは「文学」という月刊誌です。

これは「サンデー朝日」といって、週刊誌です。

週刊誌というのは、毎週一回出る雑誌のことです。

これは「季刊民族学」という雑誌です。

季刊というのは、季節ごとに、つまり、一年に四回出るという意味です。

2

日本の本は、ふつう、最後のページに、その本を書いた人、つまり、著者の名前や、発行所の名前や、発行された日付などが書いてあります。

このページを「奥付おくづけ」といいます。

これは「黒い手帖」という小説です。これが奥付です。

著者は松本清張まつもと せいちょうという人で、発行所は中央公論社という出版社です。発行年月日は、昭和36年9月30日です。発行年月日というのは、発行された年、月、日のことです。奥付には、たいてい発行されたときの値段も書いてあります。ここに定価280円と書いてありますね。これが発行されたときの値段です。

随筆 黒い手帖	● 1961	定価 280 円
昭和 36 年 9 月 25 日印刷		昭和 36 年 9 月 30 日発行
著者 松本清張	発行者 栗本和夫	印刷者 山元正宜
発行所 中央公論社 東京・京橋2-1 編集・東京34 三見印刷 小泉製本		

		古	都
		定 価 240 円	
新潮文庫 草 1 = 21			
著者	発行所	発行所	昭和十五年八月二十五日発行
川口松太郎	新潮社	佐藤栄一	昭和十五年九月五日
	東京・京橋区矢町七十一番地		三十五期
	電話 〇三三六五二		
	東京 四十八〇八番		

● 印刷・株式会社光陽 製本・恵寿堂製本株式会社
 ● Hidako Kowabetsu 1960 Printed in Japan

4

(書店で)

A 「『自然』という本を注文したいのですが。」

B 「雑誌ですか。」

A 「そうです。月刊誌です。」

B 「発行所はどこですか。」

A 「中央公論社です。」

B 「今月号だけですか。定期購読ですか。」

A 「「定期購読」というのは何のことですか。」

B 「毎月、たとえば一年間続けて買うということです。」

A 「じゃ、定期購読します。」

B 「何月号からお入り用ですか。」

A 「今月号からほしいです。」

5

(書店で)

A 「『日本の仏教』という本がほしいのですが。」

B 「雑誌ですか、単行本ですか。」

A 「「たんこうぼん」というのは何のことか分かりませんが、雑誌ではありません。ふつうの本です。」

B 「著者はだれですか。」

A 「「ちょしゃ」というのは何のことですか。」

B 「その本を書いた人，ということです。」

A 「ああそうですか。著者は渡辺しょうこうという人です。」

6

(大学の事務室で)

A 「わたしは今度入学した留学生です。よろしくおねがいます。」

B 「お名まえは。」

A 「スジアルタともうします。」

B 「お国はどちらですか。」

A 「インドネシアです。」

B 「国費留学生ですか，私費留学生ですか。」

A 「それは何のことですか。」

B 「国費留学生というのは，日本の文部省の奨学金をもらっている留学生のことで，私費留学生というのは，自分のお金で留学している学生のことです。」

A 「ああ，そうですか。わたしは国費留学生です。」

B 「学生証を発行しますから，この紙に必要なことを記入してください。」

ここに氏名，名まえですね。そして，ここに国籍，あなたの国を書いてください。」

A 「これは何のことですか。」

B 「それは生年月日と読みます。生年月日というのは，生まれた年，月，日，のことです。

ここに現住所，つまり現在，いま，住んでいる所を書いてください。」

7

A 「英語の modern period は，日本語で，「近代」といったり「現代」といったり，また「近世」といったりしますね。どちらがうのですか。」

B 「歴史の時代の分けかたは，学者によってちがいますが，だいたい，1868年の明治維新のまえ300年ぐらいを「近世」，明治以後第二次世界大戦までを「近代」，戦後を「現代」とするのがふつうです。」

A 「そうすると，「近世」というのと，「江戸時代」というのと，同じですか。」

B 「まあ，だいたいそう考えていいでしょう。」

日本歴史の時代区分では、ふつう、原始時代、古代、中世、近世、近代、現代というふうに分ける。

中国の歴史書によると、2、3世紀ごろ、北九州に多くの小さい国があったことが知られるが、4世紀になって、大和朝廷が近畿地方を中心に、ほぼ、日本全国を統一した。この時代から奈良に首都があった奈良時代（8世紀）、京都に首都がうつってから12世紀のおわりごろまでの平安時代を合わせて「古代」という。それから16世紀のおわりごろまでが「中世」である。

「近世」というのは、だいたい徳川氏が幕府を江戸（今の東京）においていた「江戸時代」のことをいい、1868年の明治維新で徳川幕府がたおれて、近代的な資本主義国家ができてからを「近代」という。「現代」というのは、第二次大戦後をさすのがふつうである。

【語句】

1. 雑誌 ざっし
 月刊誌 げっかんし
 週刊誌 しゅうかんし
 季刊 きかん
 季節 きせつ 四季=春, 夏, 秋, 冬
 刊行する かんこう (する)
 民族学 みんぞくがく
 民俗学 みんぞくがく

2. 最後 さいご
 最初 さいしょ
 最高 さいこう
 発行 (する) はっこう (する)
 著者 ちょしゃ
 この本の著者はだれですか。
 著書 ちょしょ
 あの人は著書がたくさんあります。
 ~ 著
 日付 ひづけ
 奥付 おくづけ

3. 出版社 しゅっぱんしゃ
 値段 ねだん
 定価 ていか

4. 書店 しょうてん
 自然 しぜん
 定期購読 ていきこうどく
 お入り用 (お) い (り) よう

要る い(る) 要ります, 要らない
 今月号 こうげつごう
 一月号 いちがつごう

5. 仏教 ぶつぎょう
 キリスト教
 回教
 単行本 たんこうぼん

6. 事務室 じむしつ
 今度 こんど
 留学生 りゅうがくせい
 国費 こくひ

国費留学生

私費 しひ

私費留学生

文部省 もんぶしょう
 奨学金 しょうがくきん
 学生証 がくせいしょう
 記入する きにゅう(する)
 氏名 しめい みょうじ・なまえ
 国籍 こくせき
 現住所 げんじゅうしょ

7. 英語 えいご
 近代 きんだい
 現代 げんだい
 近世 きんせい
 歴史 れきし
 時代 じだい

明治維新 めいじいしん
以後 いご
第二次 だいにじ
世界 せかい
大戦 たいせん
江戸 えど

8. 区分 くぶん
原始時代 げんしじだい
古代 こだい
世紀 せいき
大和 やまと
朝廷 ちょうてい
近畿地方 きんきちほう
統一する とういつ (する)
幕府 ばくふ
首都 しゅと
徳川氏 とくがわし
明治維新 めいじいしん
資本主義 しほんしゅぎ
国家 こっか



